

経営比較分析表（令和6年度決算）

宮城県 串間市

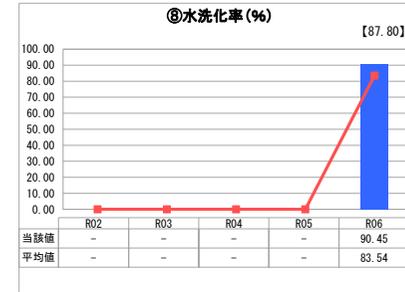
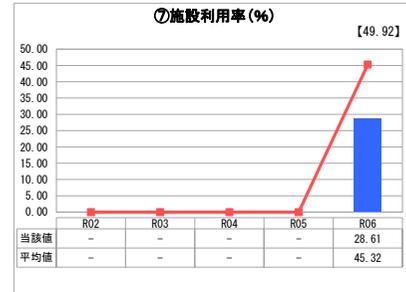
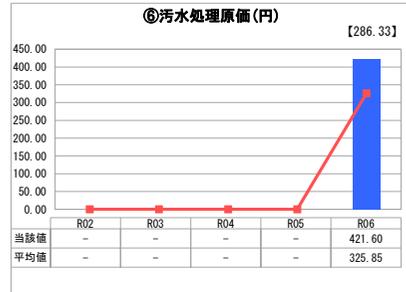
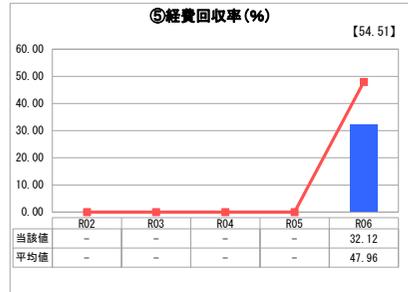
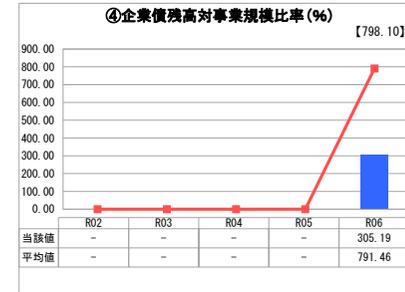
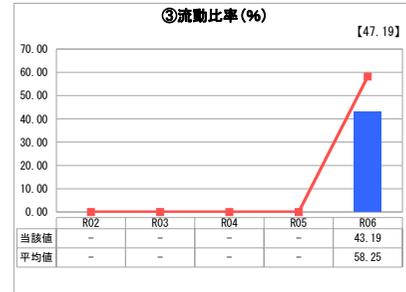
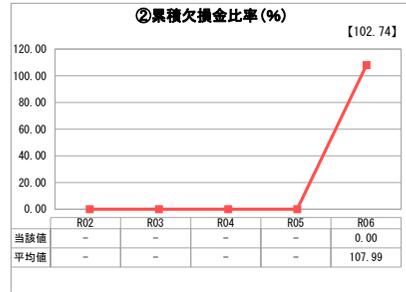
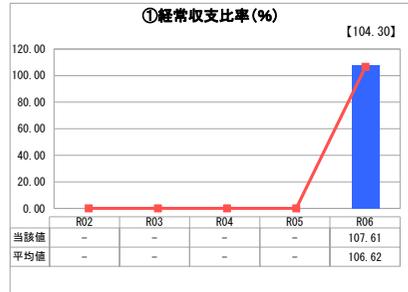
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	94.69	2.98	91.37	2,530

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,047	294.92	54.41
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
471	0.41	1,148.78

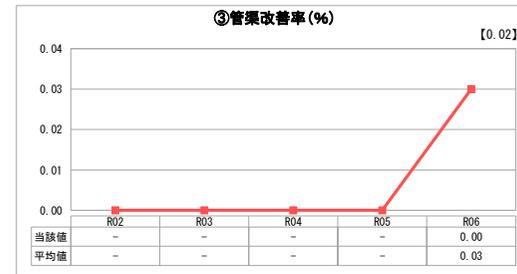
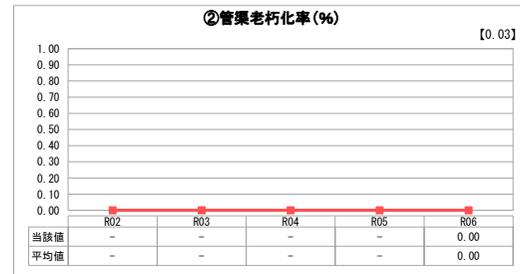
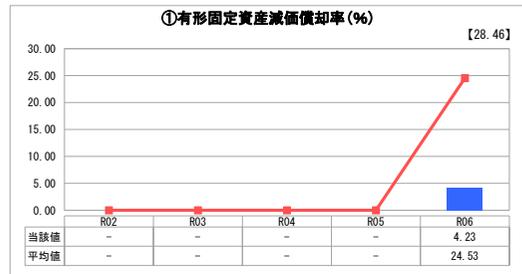
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度から地方公営企業法を適用し、初年度の決算となります。
 「①経常収支比率」については、収支不足分を一般会計からの繰入金等の収益で賄っているため100%を上回っていますが、引き続き費用の抑制を行う等、経営改善に努める必要があります。
 「②累積欠損金比率」については、引き続き0となるように努めます。
 「③流動比率」「⑤経費回収率」については、100%を下回っていることから、使用料収入の増加を図るため料金改定の検討などを行っていく必要があります。
 「④企業債残高対事業規模比率」については、近年大きな事業が無く企業債を発行していないため企業債残高が減少していますが、今後の施設更新に備え、計画的な運営を行っていく必要があります。
 「⑥汚水処理原価」については、地理的要因等により類似団体と比較高い状況にあるため、費用の抑制に努め汚水処理原価を抑えていく必要があります。
 「⑦施設利用率」「⑧水洗化率」については、施設利用率が低く改善する必要がありますが、既に水洗化率が90%を超えており、区域内の人口動態も踏まえると新たな加入は見込まず今後も厳しい状況が続くと考えられたため、施設規模の見直し(ダウンサイジング)を行うなど経費削減に努めてまいります。

2. 老朽化の状況について

農業集落排水施設は平成10年に供用を開始しており、平成30年度に実施した機能診断結果を基に策定した最適整備構想では、今後大規模改修が見込まれているため、維持管理適正化計画及び事業実施計画に基づき計画的な施設更新を行っていく必要があります。

全体総括

地方公営企業法の適用により、損益情報・ストック情報の把握による適切な経営状況の分析が可能となりました。
 水洗化率は100%が望ましいですが、90%を超えており、公共用水域の水質保全や快適で文化的な生活環境確保の観点からは、良い状況であります。
 今後施設の老朽化の進行や、処理区域内の人口減少により、維持管理に係る負担は増加していきます。使用料の改定等に伴う収益の確保とあわせて、維持管理適正化計画及び事業実施計画に基づいた計画的な施設更新を行い、持続可能な運営を図ってまいります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。